

令和5年度

事業報告書

学校法人清水国際学園

目 次

はじめに	1
I 法人の概要	2
沿 革	4
令和5年度校務分掌組織図、委員会	5
設置する学校・学科、役員・教職員の概要	6
II 令和5年度事業報告	7
令和5年度決算について	9
III 財務の概要（附属資料）	13

はじめに

在籍生徒数 414 名（学則上の定員 750 名に対し 55%の充足率）という今までにない生徒数でスタートした令和 5 年度でしたが、何とか無事に決算を迎えることができました。

令和 4 年度から科とコースの改革を行ない、それまで女子のみを募集していた情報ビジネス科を IT ビジネス科と改称し男女共学としました。入学定員 250 名の内、普通科 180 名、IT ビジネス科 70 名としていますが、IT ビジネス科だけは令和 4 年度に 71 名、令和 5 年度は 75 名、そして令和 6 年度は 70 名の新入生を迎えることができました。しかし、その分、普通科を受験する生徒が減少し、普通科の生徒募集は厳しい状況が続いています。

近年、通信制高校の人気が高く生徒もたくさん集まっています。静岡市駿河区にも令和 6 年 4 月から新しい通信制高校が開校しました。中学校までは義務教育ですが、全日制の高校では成績ばかりでなく出席日数も進級・卒業に必要です。そのため、中学校卒業時に最初から通信制高校を選択する中学生が増えているのかもしれない。

高校生活の 3 年間は長い人生の中でごく僅かな時間かもしれませんが、進学や就職を次に迎えるステップとして非常に大事な時間です。毎日、学校へ来て勉強やクラブ活動をし、クラスの仲間と交わり先生方と受け答えをしていくのは生徒たちにとって、大変なことかもしれませんが、社会へ出て行くための人間形成に必要な知識が知らず知らずのうちに身についていく大切な時期です。

本学園の校訓にある「至誠 協和 勤労」の中の「勤労」は生徒たちにとっては勉強することです。勉強といっても教科書を読んだり問題集を解いていくだけではなく、部活動に励んだり、先生や友人との人間関係を形成していくのも大切な勉強です。

高校に対する中学生や保護者の期待は年々変わっていきます。進学や就職を希望する中学生及びその保護者が入学したい高校を目指し学校の中を改革していく所存です。また、教職員が働きやすい職場環境を整えていくことも重要です。

教職員全員で一丸となって取り組んでまいりますので、理事・評議員の皆様のご理解とご支援を賜りますようお願いいたします。

I. 法人の概要

1. 基本情報

- ①法人の名称：学校法人清水国際学園
- ②住所：静岡市清水区天神一丁目4番1号 TEL054-366-4155 FAX054-368-7128
- ③HP：<https://www.shimizu-kokusai.ac.jp>
- ④Email main@shimizu-kokusai.ac.jp

2. 本校の目的

本校は、教育基本法及び学校教育法にもとづき、生徒に高等普通教育及び専門教育を施し、キリスト教教義による人格の完成をはかり、平和的な国家および社会の一員として、真理と正義を愛し、勤労と責任を重んじ、協和の精神に満ち、平和と人類福祉に貢献する人間性豊かな国際人を育てることを目的としている。

3. 教育の方針

本校は昭和8年（1933）、故市毛金太郎先生ならびに故市毛道先生によって設立された清水裁縫女学校、清水商業女学校が前身である。創立者の信仰がやがて昭和24年キリスト教学校教育同盟への加盟を実現し、以来キリスト教の教義を基にして教育を行ってきたものである。したがって、一般の学校では見られない宗教的情操を養い、宗教的信念の確立を目指している。

そのため、本校では一貫した教育方針により、教育基本法にのっとり、人格の完成を目指し、平和な国家および社会の有為な形成者として、自主的精神にみちた、心身ともに健全な国民の育成を期している。さらに建学の精神に基づき、長年の伝統と使命によって、豊かな情操と徳性を培うことを特に強調している。最後に、キリストの「隣人を自分のように愛しなさい。」という教えを身につけ、語学力を向上させ、国際社会で活躍できる人間を教育することを方針としている。

4. 校訓の意味

しせいいつしょうをつらぬき きんろうひやくじにあたり きょうわばんぜんをきす
「至誠貫一生 勤労当百事 協和期万全」の校訓は、学校生活はもちろん、社会人と

なっても真摯な態度でことに当たり、誠実に生きることを求めると共に、勤勉さを美徳とし、すべてに全力をあげて打ち込むことを教えている。そして社会に生きる時に、自己の本領を失わずに、他と協調して、正しい生活が送れるようにせよ、というものである。これは、神の恩恵によって尊い人生を稟^うけ、恩愛深い父母のもとで成長し、現代の文化を享受しながら、社会に連帯していく青年が、いかに努力すべきかの指針を与えたものであり、細川潤次郎氏の贅撰した名句を初代校長市毛金太郎氏が感銘をうけてあえて制定したものである。

5. 校章の意味

人類の平和と福祉に貢献できる人材の育成を目指している本校は、創立以来60年間、女子教育に力を注いできたが、国際化社会を迎え、平成6年、男女共学の学校に生まれ変わった。校章も新しくし、新たな飛躍へ踏み出した。

中央上の十字架は、本校が、神様の導きのもとに進む学校であることを示している。

地球は、国際社会をイメージし、緑の大地と青い海、コバルトの空が輝くこの美しい地球の平和と環境を守り21世紀の国際社会で活躍できる人材の育成を目指す学校であることを意味している。

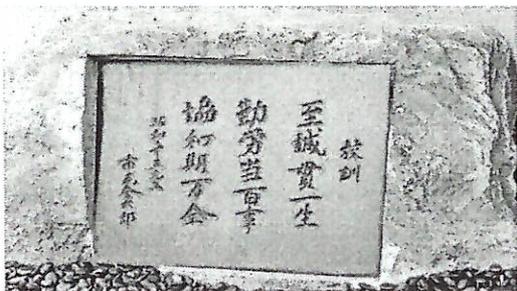
また、本校は、清らかな富士山を仰ぎ見る清水の地にあるので、左右の曲線と白抜きで、美しい富士山と白い雪を表現した。生徒が、富士山のように、清く大きく成長するようにとの願いが込められている。

6. 校歌の意味

校歌には、本校の校訓の三本柱である「至誠・勤労・協和」が、またこの郷土清水の美しい風景である「富士の峰」「駿河湾」「三保の松」が読み込まれている。

作詞は「ぎんぎんぎらぎら夕日がしずむ」の作詞者である葛原^{くずはら}しげる氏、作曲は童謡作曲家で著名な弘田竜太郎氏で、正式に完成したのは、昭和15年である。

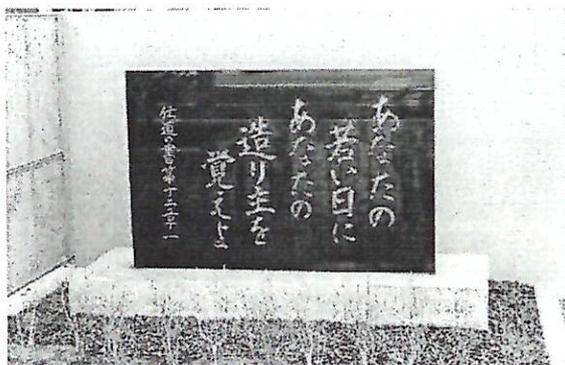
7. 歴史を刻む校庭の石碑



校訓の碑

「至誠貫一生 勤労当百事 協和期万全」

昭和50年（1975）度卒業生が卒業記念に建立。校訓の字は初代校長市毛金太郎先生が昭和36年に書かれたもの。



聖句の碑

「あなたの若い日に、あなたの造り主を覚えよ」

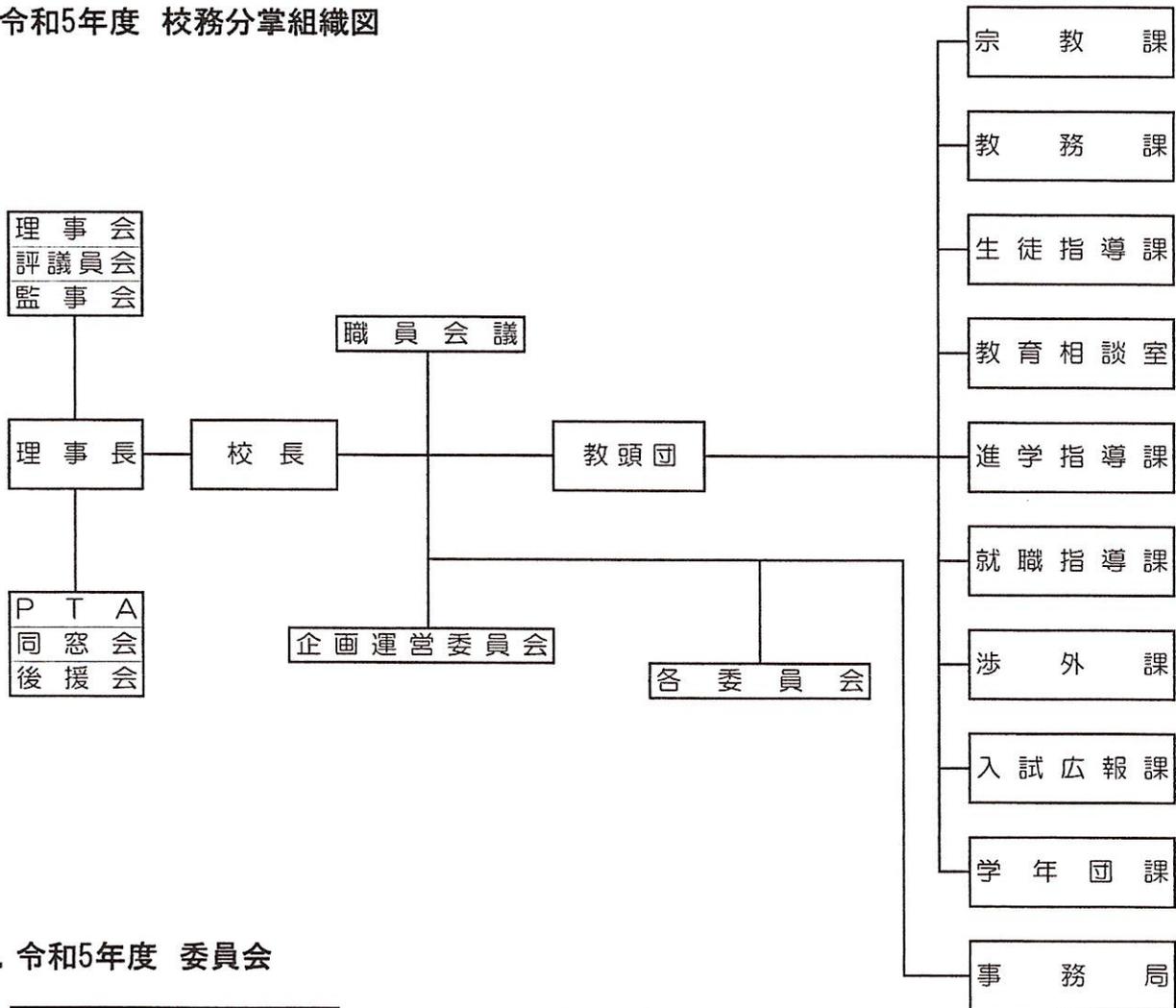
市毛金太郎先生が本校の設立にあたって思い願った聖句で、現在は「コヘレトの言葉 12章1節」に「若き日に、あなたの造り主を心に刻め。」と訳されている。

碑は昭和59年（1984）の秋に、創立50周年を記念し、全能なる神様の豊かなお恵みとお導きにより、学園に学ぶ生徒が喜びと希望と感謝に満ちた日々を過ごすことを祈って建てられた。

8. 沿革

- 昭和
- 8. 10. 1 清水裁縫女学校設立を認可された。
 - 11. 5 清水商業女学校設立を認可された。
 - 9. 4. 5 市毛金太郎氏 初代校長に就任。
清水商業女学校・清水裁縫女学校第1回入学式を挙る。
 - 10. 4. 30 文部大臣の許可を受けて、清水女子商業学校と改称。
以後、この日を開校記念日とする。
 - 18. 3. 22 財団法人市毛学園の設立を許可された。
 - 4. 2 中学校令の改正により、前記2校併合し、清水女子商業高校となった。
 - 22. 4. 5 新学制に基づいて、清水女子中学校を設置。
 - 23. 4. 5 清水女子商業学校の組織を変更し、新学制による清水女子高等学校を設立。
 - 24. 10. 30 日本キリスト教学校教育同盟に加盟。
 - 25. 12. 7 学校法人清水女子学園の設立を認可された。
 - 44. 10. 17 市毛金太郎校長 92歳をもって召天された。
 - 44. 10. 23 市毛陽二郎氏 校長に就任。（至 平成12年3月31日まで）
 - 57. 7. 30 市毛道理事長 89歳をもって召天された。
 - 8. 7 市毛陽二郎氏 理事長に就任。（至 平成15年10月8日まで）
- 平成
- 6. 4. 1 学校法人清水国際学園 清水国際高等学校・清水国際中学校に改称。
高校を共学制とする。
 - 10. 4. 1 清水国際中学校も共学制実施。
 - 12. 4. 1 市毛陽二郎氏 学園長に就任。牧野彰夫氏 校長に就任（同年5月18日退任）
 - 12. 6. 26 山内昭二氏 校長に就任。（至 平成20年3月31日まで）
 - 15. 10. 8 市毛陽二郎理事長・学園長 79歳をもって召天された。
 - 11. 5 山内昭二氏 理事長に就任。（至 平成26年3月31日まで）
 - 19. 4. 1 清水国際中学校の生徒募集停止。
 - 20. 4. 1 湯浅邦次氏 校長に就任。（至 平成26年3月31日まで）
 - 23. 4. 1 既設校舎の改築・耐震補強工事に着手。
 - 25. 3. 18 本館（新築）、別館（耐震補強）、弓道場・部室（新築）、グラウンドが完成。
 - 25. 10. 25 創立80周年記念式典及び新校舎竣工式を挙る。
 - 26. 4. 1 湯浅邦次氏 理事長に、平等民雄氏 校長に就任。（至 令和3年3月31日まで）
- 令和
- 3. 4. 1 平等民雄氏 理事長兼校長に就任。（至 令和5年3月31日まで）
 - 4. 4. 1 前田利久氏 校長に就任。（至 令和6年3月31日まで）
情報ビジネス科をITビジネス科に改称し、共学とする。
 - 5. 4. 1 水野克彦氏 理事長に就任。
 - 6. 4. 1 相澤優次氏 校長に就任

9. 令和5年度 校務分掌組織図



10. 令和5年度 委員会

生徒指導検討委員会	木内	校長・教頭団・各学年主任・生徒指導課
いじめ対策委員会	木内	校長・教頭団・生徒指導課長・宗教課長・教育相談室長・学年主任・養護教諭
教育課程検討委員会	古荘	校長・教頭団・各教科主任・進路指導課長・教務課
特別教育活動委員会	浮須	教頭団・保健指導主事・生徒指導課
修学旅行実行委員会	教頭	教頭・各学年主任・太田
学校保健委員会	清水	教頭団・保健指導主事
入試広報委員会	笠井	校長・教頭団・各分掌課長・各学年主任
将来計画策定委員会	校長	校長・教頭団・各分掌課長・学年主任・事務長
環境教育委員会	風間	教頭団・生徒指導課・各学年主任
国際教育推進委員会	漆畑	教頭団・教務課長・国際教育係・英語科
防災委員会	宇佐見	校長・教頭団・生徒指導課・各学年主任・事務長
情報教育推進委員会	古荘	教頭団・情報科
制服検討委員会	相澤	藪田・伊藤・漆畑・家庭科・各学年主任
安全衛生委員会	校長	教頭団・事務長・衛生管理者・産業医・組合執行委員長・組合副委員長
ハラスメント委員会	校長	教頭団・事務長・相談室長

11. 設置する学校・学科・入学定員・在籍生徒数

令和6年4月1日現在

学科名	学則上の定員				令和6年4月1日現在生徒数				学級数			
	1学年	2学年	3学年	計	1学年	2学年	3学年	計	1学年	2学年	3学年	計
普通					81	83	82	246				
うち男子	180	180	180	540	45	45	46	136	4	4	3	11
うち女子					36	38	36	110				
ITビジネス科					70	73	62	205				
うち男子	70	70	70	210	42	39	39	120	2	3	3	8
うち女子					28	34	23	85				
合計	250	250	250	750	151	156	144	451	6	7	6	19
うち男子					87	84	85	256				
うち女子					64	72	59	195				

学科名	学則上の定員				令和6年4月1日現在生徒数				学級数			
	1学年	2学年	3学年	計	1学年	2学年	3学年	計	1学年	2学年	3学年	計
中学校	150	150	150	450	0	0	0	0	0	0	0	0

※中学校は平成19年度より生徒募集を停止している。令和6年度中に廃止の計画。

12. 役員・教職員の概要

理事等の数

選任区分	定数	実数	任期
校長	1人	1人	—
評議員	1人	1人	3年
学識経験者	3人	3人	3年
宗教関係	1人	1人	3年
理事計	6人	6人	
監事	2人	2人	3年

評議員の数

選任区分	定数	実数	任期
教職員	2人	2人	3年
卒業生	3人	3人	3年
保護者	2人	2人	3年
学識経験者	6人	6人	3年
評議員計	13人	13人	

教職員数

(令和6年4月1日現在)

区分	男	女	計		
校長	1人		1人		
教頭	1人		1人		
副教頭	1人		1人		
教諭	15人	8人	23人	平均年齢	
養護教諭		1人	1人	教員本務	41.8歳
常勤講師	9人	3人	12人		
非常勤講師	4人	7人	11人	非常勤講師	64.0歳
教員計	31人	19人	50人		
事務職員	2人	3人	5人	事務職	53.1歳
実習助手(ALT)		1人	1人		
スクールバス運転手	1人		1人		
職員計	3人	4人	7人		
教職員計	34人	23人	57人		

Ⅱ. 令和5年度 事業報告

【1】建学の精神

「社会で自立できる人材の育成」を目標に「至誠」「勤労」「協和」の校訓とキリスト教の「隣人愛」の精神による教育

【2】本年度の重点目標

- (1) 挨拶を通じた人づくり
- (2) 主体的な学びで、学力向上を図る
- (3) きめ細かな進路指導で、より良い進路実現を図る
- (4) 選挙権年齢・成年年齢引き下げに対応した指導

【3】具体的方策

- (1) 挨拶を通じた人づくり
 - ①学級・学年・授業・分掌・生徒会・部活動を通じての取り組み
 - ②挨拶する意味を考えさせる
 - ③その場にふさわしい挨拶とマナーを考えさせ、実践に移していく
 - ④実践の範囲を広げていく
 - ⑤挨拶を通じて「その生徒」に成長が見られたら、高く評価する
- (2) 主体的な学びで、学力向上を図る
 - ①ICT 機器を活用した「わかる授業」「楽しい授業」「身に着く授業」の実践
 - ②「マナトレ」「国際サポート」の見直し・改善と補習・講座の充実
 - ③アクティブラーニングや探求学習による思考力・判断力・表現力の伸長
- (3) きめ細かな進路指導で、より良い進路実現を図る
 - ①新たな科・コースの編成により、1年次から進路を明確にし、段階的な指導を行なう
 - ②個人面談を充実させ、教員が連携して指導に当たる
 - ③高大連携や地元企業あるいは地域との連携強化
- (4) 選挙権年齢・成年年齢引き下げに対応した指導
 - ①権利と責任についての教育
 - ②「公共」の授業による参政権と「家庭総合」の授業による消費者教育
 - ③講師による講演やポスター掲示・投票所の手伝い等の奨励

【4】その他の重点項目

- ①HP や SNS を通じた積極的な広報活動
- ②コロナ禍にあっても生徒がチャレンジ・活躍できる場を増やしその努力の過程を評価する
- ③多様な問題を抱える生徒に対応するため相談室・保健室からの情報を共有し適切な対応をする
- ④礼拝入場時は生徒のみならず教員もしっかりとした服装で臨む
- ⑤生徒に5分前行動を呼びかけている中、教員も余裕をもった出勤をする

【5】学校法人における事業の概要

(1) 理事会・評議員会の開催

- ①開催日：令和5年5月26日（金）
令和6年3月8日（金）

②主な議題

- ・学校法人清水国際学園評議員の選任及び改選について
- ・令和4年度事業報告及び決算・監査報告について
- ・校長の人事について
- ・理事の選任について
- ・令和5年度補正予算について
- ・令和6年度当初予算について
- ・令和6年度事業計画について
- ・借入金限度及び当座貸越契約について
- ・清水国際高等学校学則の変更について
- ・清水国際学園就業規則の一部改正について
- ・教職員給与規程の一部改正について
- ・清水国際中学校の廃止について
- ・役員等賠償責任保険契約の契約更新について
- ・その他

(2) 教職員の採用及び退職について

①令和5年度末の退職者

5名（内訳：校長、教諭1名、常勤講師2名、非常勤講師1名）

②令和6年度新規採用者

7名（内訳：常勤講師4名、非常勤講師2名、事務職〈生徒相談室〉1名）

【6】令和5年度決算について

※資金収支決算の概要

資金収支計算書は、当該会計年度の諸活動におけるすべての収入と支出を明らかにして、支払資金の顛末をあらわす計算書です。この計算書の特徴は、収入と支出をすべて現金預金で行なわれたものと見做して表示し、実際には当該年度の現金預金の収支ではない期末未収入金、前期末前受金、期末未払金などを資金収支の調整勘定として差引調整計算することで期末における現金預金残高を翌年度繰越支払資金として表示するところに特徴があります。

今期は在籍生徒数が414名と前年度に比べ23名減少しました。前期繰越金として普通預金と手元現金を併せて223,401千円あり、収入としては、授業料・入学金等の学生生徒納付金175,357千円、補助金235,069千円、寄付金収入18,140千円、令和6年度に入学する生徒の入学金等の前受金25,160千円、借入金130,000円等を計上しました。

一方、支出として人件費337,212千円（うち退職金支払額22,513千円）、経費として教育研究経費と管理経費を合わせ71,792千円、設備関係支出に13,304千円、借入金支払利息3,470千円、借入金返済186,616千円等を計上した結果、次期繰越金として283,442千円（前年度比+45,041千円）残すことができました。

※事業活動収支決算の概要

事業活動収支計算書を作成する目的には2つあります。ひとつは、1年間の教育活動、教育活動以外の経常的な活動、その他の活動の3つの活動区分に集計される事業活動収入と事業活動支出のそれぞれの内容を明らかにすることです。経常的な収支（教育活動収支と教育活動外収支）と臨時的な収支（特別収支）の各区分ごとの収支の状態を明らかにします。ここで用いられる「事業活動収入」とは学校法人の負債とならない収入のことをいい、「事業活動支出」には資金収支計算書の支出と違って、実際には現金預金の支出を伴わない減価償却額や退職給与引当金繰入額などを含めた金額となります。

ふたつめは、基本金組入後の収支均衡の状態を明らかにすることです。学校法人は本来、収支均衡を目指す非営利法人で、学校に入ってきた事業活動収入を事業活動支出という形で生徒に還元し、収支を均衡させることを目的としています。よって、当該会計年度において基本金組入額を控除した当該会計年度の諸活動に対応するすべての事業活動収入および事業活動支出の均衡の状態を明らかにするため、事業活動収支計算書を作成するものです。事業活動収支計算書は一般企業の損益計算書にあたり、採算の取れた経営をしているか、儲かっているかも判断できますが、企業と違い利益を追及しているわけではないので、利益・損失という言葉の代わりに「収支差額」と言っています。

【教育活動収支：事業活動収入の部】

- ① 学生生徒等納付金 : 175,357 千円 (前期比△12,156 千円)
 減少額 12,156 千円の内訳
 ①授業料 生徒数減少により前期比△11,646 千円
 ②入学金及び施設整備費 前期比 △510 千円
- ② 手数料収入 : 3,132 千円 (前期比+36 千円)
 増加理由：受験者数が前期比 3 名増加。
- ③ 寄付金 : 9,184 千円 (前期比△6,592 千円)
 内訳：卒業生からの寄付金 1,224 千円 (前期比△660 千円)、
 PTA から ICT を活用した授業環境の整備及び部活動手当援助、ス
 クールバス運行の補助等併せてして 7,760 千円
 企業からの寄付金 200 千円。
- ④ 補助金 : 235,069 千円 (前期比△12,231 千円)
 補助金の主なもの
 ①国庫補助金
 文部科学省：学校保健特別対策事業費補助金 548 千円
 ②県補助金
 経常費補助金 207,643 千円
 授業料減免事業費補助金 22,157 千円
 スクールカウンセラー・就学支援金事務費補助金 928 千円
 私立学校物価高騰対策支援金 1,035 千円
 県補助金合計 231,763 千円
 ③市町村補助金・・・静岡市私立学校振興補助金等 2,758 千円
- ⑤ 付随事業収入：補助活動収入 (業者からの販売手数料他) 997 千円
 受託事業収入：NHK 学園協力校経費 1,482 千円
- ⑥ 雑収入 : 3,221 千円 (前期比△16,855 千円)
 うち 退職社団交付金：2,013 千円 (前期比△10,000 千円)
 (退職者に対する退職金支払資金)
- ⑦ 教育活動収入計：428,442 千円 (前期比△47,931 千円) A

【教育活動収支：事業活動支出の部】

- ① 人件費
 人件費総額では今期 317,965 千円と、前期に比べ△16,389 千円減少した。

教職員の人件費で△8,807千円、退職金支払で△7,582千円減少したのが、その理由である。

② 教育研究経費

116,714千円（うち減価償却費 59,756千円） （前期比△38,885千円）

前期比 2 百万円以上減少した費目

光熱水費 △3,124千円

減価償却額 △7,983千円

修繕費 △29,472千円

・減少理由

光熱水費

前期はそれまで契約していた新電力の会社に突然契約を解除され、中部電力パワーグリッドから高い電気を調達せざるを得なかったが、今期は新規に新電力の会社と契約できたため比較的安く電気を調達できた。

修繕費

前期は校舎内及びグラウンドの照明を全て LED 照明に切り替えた費用 25,814千円や協和館の雨漏り修理に 2,201千円、自火報設備の煙感知器等の交換に 1,727千円等の大きな修繕費が発生したため。

③ 管理経費

16,952千円（うち減価償却費 2,118千円） （前期比△14,149千円）

前期比 2 百万円以上減少した費目

減価償却額 △14,279千円

④ 教育活動支出計：451,631千円（前期比△69,423千円） B

教育活動収支差額 (A - B) = △23,189千円（前期比+21,492千円） C

【教育活動外収支：事業活動収入の部】

① 受取利息・配当金：719千円（前期比+303千円） D

【教育活動外収支：事業活動支出の部】

① 借入金等利息

3,470千円（前期比△617千円減少） E

教育活動外収支差額 (D - E) = △2,751千円（前期比+920千円） F

経常収支差額 (C + F) = △25,940千円（前期比+22,412千円） G

【特別収支：事業活動収入の部】

資産売却差額

655 千円 (スクールバス・小型車、有価証券の売却益)

その他特別収入

8,956 千円 (PTA からの寄付の内、スクールバス購入に充当分)

特別収入計：9,611 千円 H

【特別収支：事業活動支出の部】

0 千円 (前期比 0 千円) I

特別収支差額 (H-I) = 9,611 千円 (前期比 +9,611 千円) J

基本金組入前当年度収支差額

(G+J) = △16,329 千円 (前期比 +32,023 千円) K

基本金組入額合計：△51,600 千円 (前期比△51,600 千円) L

【今年度の固定資産純増加額+設備関係の長期借入金の今期返済額】

今年度の固定資産の増加額 13,305 千円から減少額△14,714 千円を控除した額 (△1,409 千円) に新校舎関係建設費等長期借入金の今期約定返済分 53,009 千円を足した金額が基本金組入額となる。

当年度収支差額 (K+L) = △67,929 千円 (前期比△19,577 千円) M

前年度繰越収支差額 = 43,194 千円 (前期比△30,889 千円) N

翌年度繰越収支差額 △24,735 千円 (前期比△67,929 千円)

上記のように、令和 5 年度事業活動収支は生徒数が前年度と比べ 23 名減少したため授業料や経常費補助金が減少したことから、人件費や教育研究経費・管理経費が大きく減少したのにもかかわらず「事業活動収入」と「事業活動支出」の差額は△16,329 千円の支出超過となってしまった。この差額をどうやってプラスに持っていくかが令和 6 年以降も当学園に与えられた宿題です。そのためには収入の柱となる生徒数を増やすことが必要です。少子化が進む中で近年、通信制の高校が生徒数を飛躍的に伸ばしており、中学生及びその保護者に選ばれる学校となるにはどうすれば良いのか、学校経営の最も大きな課題です。